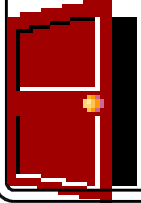


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和5年1月23日 文責 渡邊

## 令和4年度静岡県PTA連絡協議会

### 「親子でつくる携帯・スマホに関する標語コンクール」より！

令和4年12月15日号の「静岡県PTA新聞」に「親子でつくる携帯・スマホに関する標語コンクール」の入賞作品が紹介されていたので紹介します。  
はじめに、小学生の作品です。

#### ★小学生の作品より

- ・1年生 「スマートフォン わたしのパパをとらないで」
- ・6年生 「おはようと 入力するより 声に出そう」
- ・3年生 「ゲームより 外で虫取り レアゲット」
- ・6年生 「メールでは つたわらないよ その表情」
- ・6年生 「ちゃんとみよ スマホじゃなくて 相手の目」
- ・6年生 「危機一髪 フィルタリングが 救世主」
- ・5年生 「メールでも 優しい言葉の 心がけ」
- ・5年生 「指一本 軽い気持ちで きずつける 人の心と 自分の人生」
- ・5年生 「かるはずみ おくった一言 だいじょうぶ？」
- ・6年生 「Siriよりも 母の解説 おもしろい」



1年生の作品は、大人の姿をよく見ていると感心させられます。私たち大人も生活の中でスマートフォンをよく活用していますものね。「パパをとらないで」の表現に、パパやママたちは胸に刺さるものがあったのではないのでしょうか？「校長は、どうなの？」と思われるかもしれませんが、私は家に帰ると携帯電話は二階にある仕事部屋に通勤用バッグとともに放置します。いわゆる「不携帯」状態ですね。ですから、知人から携帯電話を持つ意味がないのではないかとお叱りを受けます。家では、孫と遊んだり読書をしたりして自分の時間を楽しんでいます。

携帯やスマホに頼らず、直接人と会話することの大切さについて書かれた作品が複数ありました。メールやLINE等での文字や絵による表現だけでは、本当の思いは伝わらないのではないかと子供たちも感じているのでしょうか。

私たちの身の周りにある情報機器は、これからも益々発達していくことが予想されます。それに伴って、今後何らかの弊害も生じることでしょうね。そこで、大人として、携帯やスマホの安全な使い方について、じっくり子供たちと話し合うことが大切になってくると思います。

さて、次は中学生の作品を紹介します。

#### ★中学生の作品

- ・3年生 「スマホには 時間泥棒 隠れてる」
- ・2年生 「コロナ禍も ラインで確認 元気だよ！」
- ・2年生 「スマホ閉じ じいちゃんに聞く 豆知識」
- ・1年生 「画面より 目が合う 会話があたたかい」
- ・1年生 「守りたい 電波がなくても つながる絆」
- ・1年生 「なくさない 友と信用 その指で」
- ・3年生 「見られるよ あなたのマナー ネットでも」

- ・2年生 「新習慣 スマホデトックスで フル充電」
- ・1年生 「大切な言葉はスタンプよりも 声で聞きたいよ お母さん！」
- ・2年生 「つぶやいた その悪口で 犯罪者」

3年生の作品「スマホには 時間泥棒 隠れてる」を目にしたとき、私の大好きな小説『モモ／時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語』（ミヒヤエル・エンデ作、大島かおり訳）を思い起こしました。

この本は、小学校高学年の子供たちにお薦めします。時間は私たち皆が持っているものです。楽しく生活するためには、その時間をどのように使うのかが大切だと思うのですが… 私たちは、「時間」はあって当たり前なものだと思っていて、深く考えることはありません。しかし、この本には、「時間」の大切なことがいっぱい詰まっています。

私たち大人が読んでもおもしろい作品です。本校の学校図書館にもありますし、校長室にもありますので是非手に取ってくださいね！

最後に、保護者や教職員の作品を紹介します。

★保護者・教職員の作品

- ・「まだ会えぬ ばあばと繋ぐ ほっとLINE」
- ・「スマホより にぎっていたい あなたの手」
- ・「子供に教えるスマホの怖さ 子供に教わるスマホの操作」
- ・「スマホ置き 会話で気付く 子の日常」
- ・「スマホより 思いやる心を フル充電」
- ・「自由なの？ 縛られてるよ ケータイに」
- ・「携帯に 我が子の成長 つまってる」
- ・「ママはここよ スマホの魅力に 勝ちたいな」
- ・「ねえ、ちょっと ちゃんと聞いてよ！ママの声 スマホは子供の耳泥棒」
- ・「スマホ依存 スマホの中には竜宮城 我にかえれば 浦島太郎」

大人の視点からの作品に「なるほどな！」と感心させられる作品が多かったです。思わず笑みがこぼれました。

「ママはここよ スマホの魅力に 勝ちたいな」や「ねえ、ちょっと ちゃんと聞いてよ！ママの声 スマホは子供の耳泥棒」は、先ほど紹介した小学生の作品に似ていて、子供も大人もスマホに縛られないでもっと親子の時間を大切にしたいという思いが伝わってきました。

どうか各家庭において、話題にしてみてくださいね！

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」（1月23日号）を読んでの感想

( )年( )